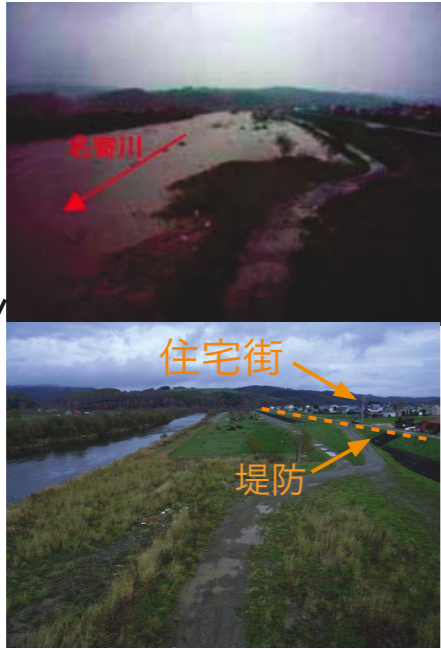
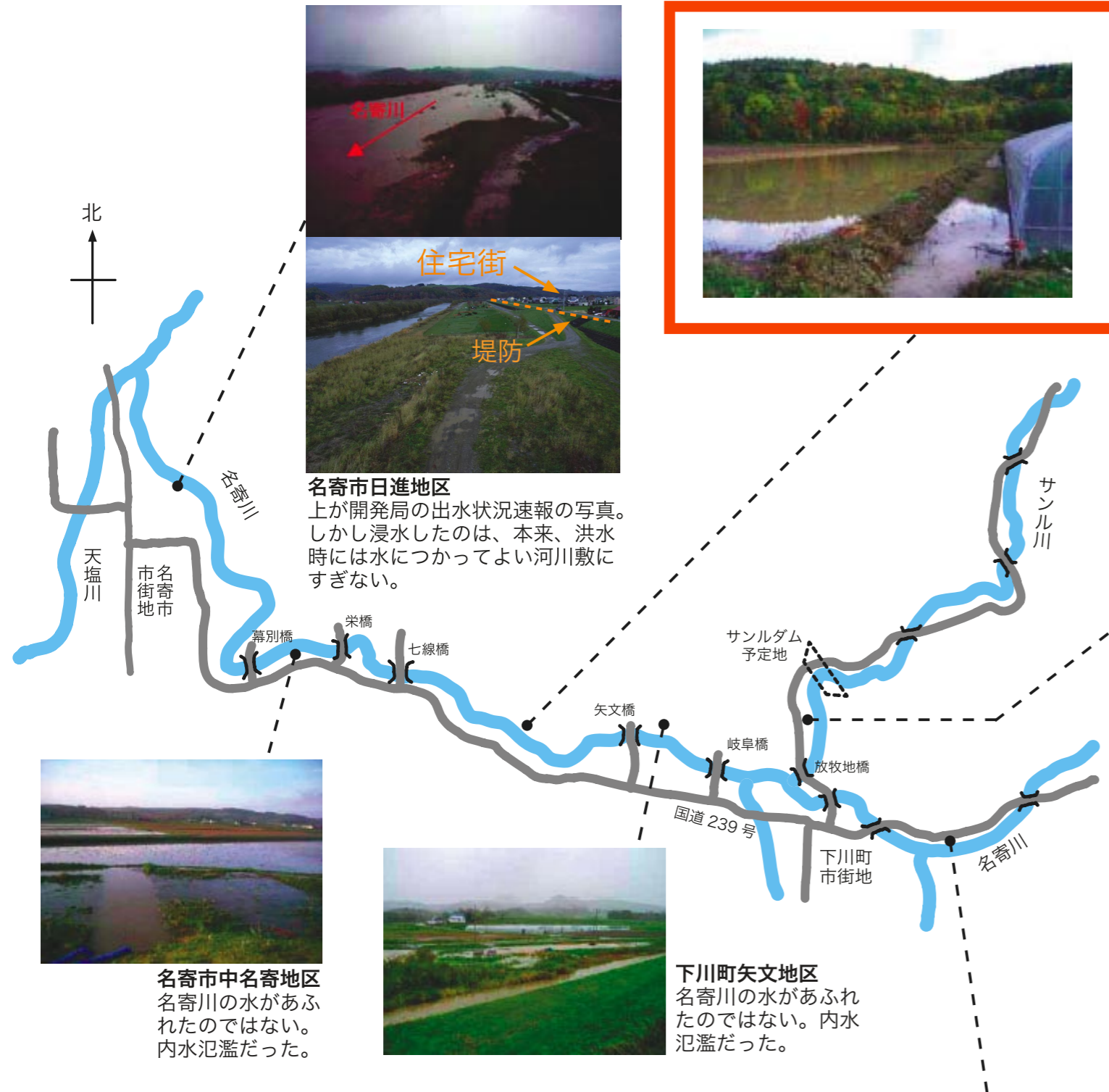


資料 2 2006.10 浸水被害の状況



名寄市日進地区
 上が開発局の出水状況速報の写真。しかし浸水したのは、本来、洪水時には水につかってよい河川敷にすぎない。

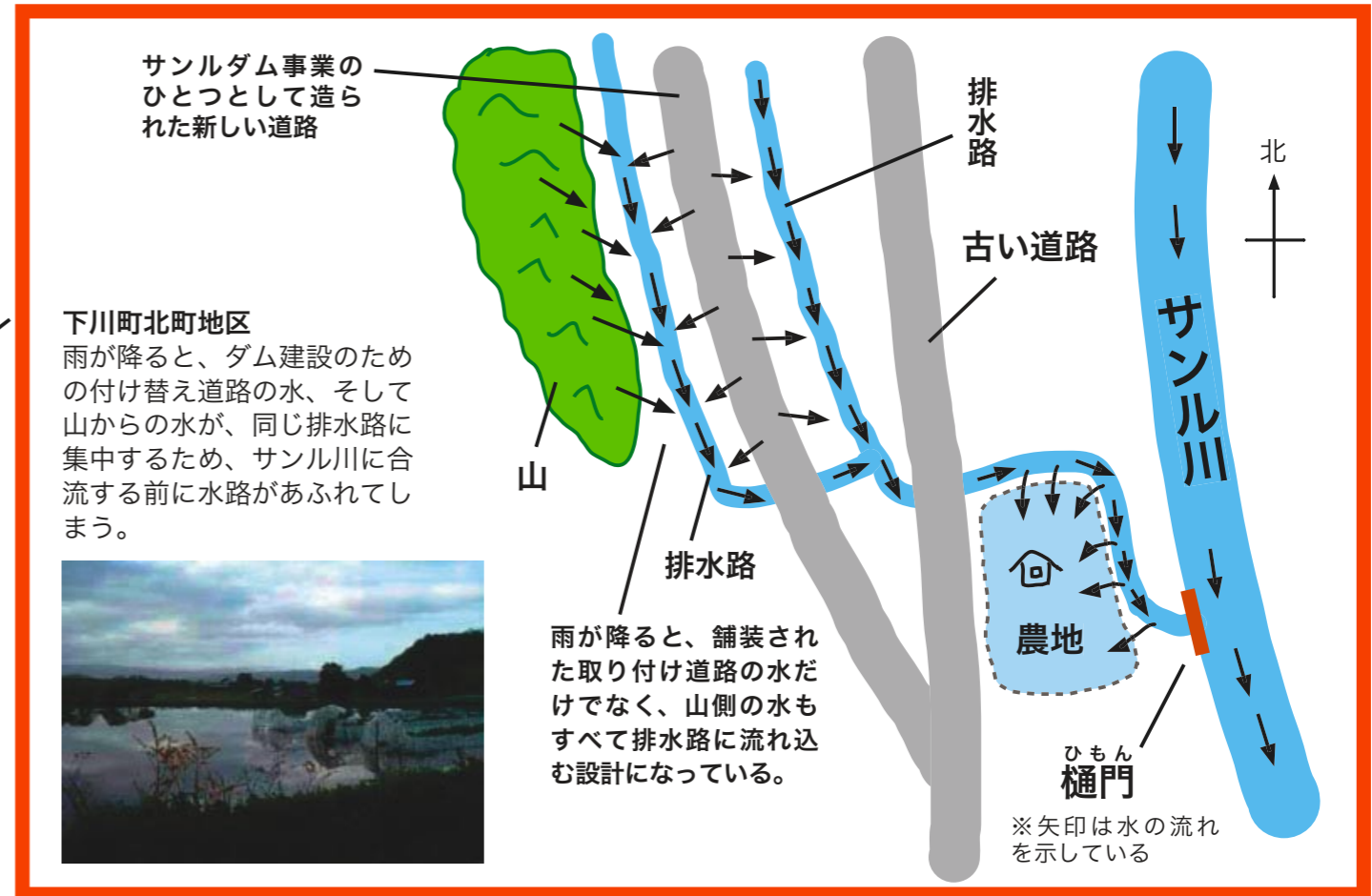


名寄市中名寄地区
 名寄川の水があふれたのではない。内水氾濫だった。

下川町矢文地区
 名寄川の水があふれたのではない。内水氾濫だった。



下川町上名寄地区
 右岸堤防が未整備のため名寄川の水が氾濫した。川岸の盛土も浸食を受けている。サンルダムを建設しても、整備目標の洪水では浸水を免れられない。早急な対策が必要。



下川町北町地区
 雨が降ると、ダム建設のための付け替え道路の水、そして山からの水が、同じ排水路に集中するため、サンル川に合流する前に水路があふれてしまう。



雨が降ると、舗装された取り付け道路の水だけでなく、山側の水もすべて排水路に流れ込む設計になっている。



下川町三の橋地区
 堰堤の右岸側から名寄川の水があふれて浸水した。無堤防地区なので堤防があれば浸水を防ぐことができた。ここはサンル川との合流点より上流側なので、サンルダムをつくったとしても、そもそもまったく効果のない場所である。

※写真の一部は北海道開発局の「低気圧による天塩川の出水状況（速報版）」より転載